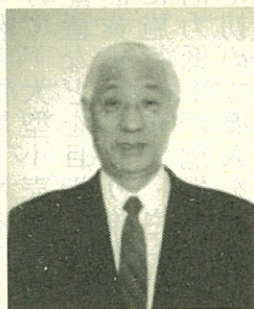


# ふくしま県人会だより

第 13 号  
平成 18 年 1 月  
福島県人会  
北海道連合会

新年のごあいさつ

会長 長谷川 顕



新年明けましておめでとうござ  
います。

会員の皆様におかれましては、  
輝きに満ちた新年を迎えられまし  
たことと推察し、お慶びを申し上  
げます。旧年中は会員の皆様方  
には大変お世話になり、紙上をお借  
りし厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を顧みて一月末に第  
二回役員会を開催し、五月には第  
三十三回福島県人会北海道連合会  
総会を稚内福島県人会の御尽力の  
もと、盛大かつ有意義に開催でき

ましたことに敬意を表し、厚く御  
礼を申し上げます。

当日は遠路にもかかわらず、佐  
藤知事御夫妻をはじめ県議会議長  
渡辺敬夫様、会津若松市長菅家一  
郎様の御臨席のもと、また地元よ  
り稚内市長横田耕一様、道議会議  
員吉田正人様をはじめ市議会議  
長、宗谷支庁長（高橋はるみ北海  
道知事代理）等多くの御来賓の出  
席を賜りましたことに重ねて厚く  
御礼を申し上げます。

なお、御来賓の皆様におかれま  
しては、前日に利尻島に渡られ、  
利尻町・利尻富士町に奉られてお  
ります会津藩士の慰霊をされ、ま  
た総会当日には稚内市宗谷におい  
て旧藩士の慰霊をされるなど、強  
行日程にもかかわらず精力的に活  
動されましたことに深甚なる敬意  
を表するものであります。

一昨年来、福島県と北海道との  
交流事業がスタートし、昨年は北  
海道において交流懇談会等が開催

されたと聞いております。今後も  
文化、経済、人的交流になお一層  
強固な絆が結ばれ、両道県の交流  
が発展することを祈念しておりま  
す。

今日の経済情勢は好転の兆しが  
見えてきたとはいえ、北海道、東  
北においては未だ厳しい環境のも  
と堪え忍んでいるのが現状でござ  
います。反面、好天による農作物  
の豊作に恵まれたことは明るい明  
日に向けて何よりの励みとなつて  
おります。今後の日本を左右しか  
ねない昨年の衆議院議員選挙は自  
民党圧勝の結果となりましたが、  
緊縮財政のもと益々公共事業等が  
削減され、私達の生活を直撃し堪  
え忍ぶ時が来るのではないかと危  
惧しております。しかし、このよ  
うな時こそ健康で明るい社会を築  
くのは私達であり、会員の皆様と  
手を取り合い智慧を出し合い、太  
陽のように真つ赤な情熱を持ち、  
笑顔を忘れず明日に向かうこと  
心がけて進もうではありません  
か。

今年の北海道連合会総会は、苦  
小牧福島県人会の主幹のもと開催  
されることになっております。苦  
小牧の皆様には大変お世話になり  
ますが、何卒宜しく願います。

苦小牧での開催は初めてでござい  
ますが、多くの会員の参加をお願い  
いたしますと共に、元氣な笑顔に  
お会いできますことを楽しみにお  
待ち申し上げます。

終わりに、会員の皆様の御健勝  
と御多幸を祈念し、新年の御挨拶  
といたします。

新年のごあいさつ

福島県知事 佐藤 栄佐久



新しい年の初めに当たり、福島  
県人会北海道連合会の皆様の御多  
幸を心からお祈り申し上げます。

皆様の県人会が、昭和四十八年  
の発足以来、着実に発展を続けら  
れ、また、会員の皆様の日ごろそ  
れぞれの分野において活躍されて  
おりますことは、誠に御同慶に堪  
えません。

皆様のふるさと福島県では、全

国に先駆けた特色ある取組みを進めております。

地方の明確な責任と判断の下に教育改革を行うとの考えから、昨年は全国初となる小・中学校全学年における三十人程度学級を導入いたしました。今年、スポーツのみならず人間性や学力も含め、国際人として社会をリードする人材を育成する新たな教育の試みとして、日本サッカー協会などとの連携の下に、富岡高校を中心とした中高一貫教育をスタートさせます。また、各地で中心市街地の空洞化が問題となる中、全国に先駆けて、大型小売商業施設の適正な配置などを目指し昨年制定した「商業まちづくり推進条例」を十月に施行します。さらに、農山村の活力低下が危惧される中、東日本で初めて導入を決定した森林環境税を活用し、森林環境の保全とともに過疎・中山間地域の振興・活性化を図ってまいります。

昨年の秋には欧州三か国を訪問しましたが、それらの成果を、教育改革二年目の具体的取組み、一人ひとりの住民が主役となる真の分権型社会に向けた処方箋となる「分権宣言進化プログラム」の策定・具現化、文化を起点とした個性あふれる地域づくり、「人」中

心の新しいまちづくりなどに生かしてまいります。

さて、会津藩の北方警備から始まる北海道と当県の交流の歴史が、間もなく二百年を迎えようとする中、平成十六年度から両道県の交流事業を展開しておりますが、昨年は八月末の高橋北海道知事との対談や「うつくしま懇談会」を開催いたしました。

今後とも両道県の交流を一層深めてまいりますとともに、分権時代における主体的で創造的な施策を積極的に展開し、県民の安全・安心の確保を最優先に、皆様が誇りを持って語ることでできるふるさとづくりに努めてまいります。さとづくりに努めてまいりますので、更なる御理解と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆様のますますの御健勝、御活躍を心からお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

## 会員通信

### 「遺族会と須賀川牡丹園」

#### 紋別地区福島県人会幹事

佐川 達人

戦争で身内を失った方々で作っている遺族会という組織は、全国どこの市町村にもあると思うが、紋別では市町村合併前（昭和二十九年合併）の三市町村の遺族会をまとめて「連合遺族会」（会員数約百四十名）を結成しております。この連合遺族会慰霊巡拝事業が戦後六十年を期して行われました。勿論最終目的は靖国神社参拝でありますが、研修視察先として、須賀川の牡丹園・野口英世記念館・会津武家屋敷・飯盛山・鶴ヶ城等々を含め五月十六日から十九日までの参加者十八名の旅行でした。団長は連合会会長柳沼氏であるが、この柳沼氏は我々県人会の三役の一人、柳沼君夫君であります。新千歳空港を十二時に出発し福島空港には十三時十五分着、須賀川牡丹園までバスで約四十分、十四時に着きました。

この牡丹園は、明治三年に伊東祐倫という人が牡丹の根を薬用にするために、苗木を現在の兵庫県宝塚市（摂津の国）から持ってきて栽培したのが始まりと言われており、その後明治の初期に柳沼家が受け継ぎ、種類も年々増やして現在の形になったとか。広さは十ヘクタール（東京ドームの三倍）あり二百九十種、七千株の古木が華やかにして優雅に咲き誇るようですが、この柳沼さんの胸像も園の中に建てられており、寝食を忘れるほどの努力により日本の牡丹園の基礎を築き上げた功徳を讃えております。

### 原石鼎句碑

石鼎は、飯田蛇笏・村上鬼城・前田普羅と並ぶ大正時代の著名俳人である。元園主柳沼破籠子（源太郎）は石鼎に師事していた関係から数次にわたり来園し、牡丹を詠み、その句は数十をかぞえる。この句は大正十一年の作である。

日をつつむ雲に光りや牡丹園

石鼎

句碑の字は石鼎未亡人コウ子の筆である。



会津藩の歴史

紋別市連合遺族会会長の柳沼氏は三春町の出身であり、牡丹園の柳沼さんとは先祖をたぐればどこかで結ばれているのではないかとともにつばらの話題となりました。胸像の翁はその名を柳沼源太郎といい、明治八年に須賀川市に生まれました。家業は糸八木屋といわれる木綿糸や絹糸を商う仕事でしたが、源太郎は柳沼家の長男でありながら家業を弟に譲り、牡丹園の仕事に夢中になっていた様です。また、源太郎は松島の瑞巖寺等で禅の修業を続けながら四十一才で俳句の道にも力を入れ、「破籠子」という雅号で優れた作品を発表していたようです。昭和十四年十二月六日、六十四才で世を去りましたが、源太郎が築いた牡丹園は昭和三十三年に財団法人化されて、現在の「須賀川牡丹園」として、須賀川市は勿論、福島県の名勝として立派に地域の観光等に寄与しております。

「園主より  
身は茅牡丹の  
奴かな」  
昭和十一年「破籠子」作

「福島県天栄村YOSAKOI  
ソーランジュニア  
東日本大会を訪問して」

札幌福島県人会婦人部長  
高橋 成子

昨年の札幌市のYOSAKOIソーラン祭りに天栄村のチームが参加した際、札幌福島県人会で激励会を開催したり、パレードの応援を行いました。これが縁で天栄村で開かれたジュニア東日本大会に招待され、風間阿紀子さん、寺脇静子さんと三人で交流を深めてきたので紹介します。

【七月三十日】

夏本番の太陽を浴びながら私達の乗った飛行機は、新千歳空港から福島空港へと向かいました。到着ロビーには、村役場の北畠さんが迎えにきてくださいました。

緑豊かな自然の中をワゴン車で走り抜け、最初に訪れたのは田んぼの中の一軒家、村の『そば茶屋』です。地元の愛好会のメンバーが、土日祝日だけ営業しているお店でした。昔の離れを改装した家には小さな日本庭園があり、そこを眺めながら美味しい手打ちそばと新鮮な野菜の天ぷらを、お腹一杯い

たきました。とても魅力ある空間で、癒しのひとときを過ごしました。



次に案内されたのが、日本最大級の人造湖「羽鳥湖」です。遊歩道には吊り橋が架けられ、きれいな湖畔と夏つばきの白い花がとても印象的でした。

天栄村は豊かな緑と湖、温泉など美しい自然に囲まれ沢山の施設が揃い、四季を通じて楽しく過ごすことのできる所です。その中でもとても感激したのが英国の文化を体験できるリゾート保養施設『ブリティッシュヒルズ』です。広大な敷地の中には、十二〜十八世紀のイギリスの建築様式で再現した民家やパブなどが並んでいます。

その中心となる荘園領主の館（マナーハウス）は十四〜十五世紀の古城をヴィクトリア時代に改築してカントリーハウスに仕上げたというイメージだそうで、家具調度品もすべて時代考証の上で建築されており、中世イギリスを擬似体験することが出来ます。気分はすっかり中世の貴族になりました。



メイン会場へと向かいます。羽鳥湖高原の森には、レイクレジーナと名付けられた沼に演舞のための特設のステージが造られ、いろいろ工夫が凝らされており、手作りの暖かさが感じられました。子供達はキャンプや魚つかみなど自然探索をしながら交流しあい、ソ

ーランナイトを待ちます。

私達は夕食会に案内され、大会長である天栄村長金子様の開催あいさつにより華やかに始まりました。大会実行委員会や関係者の方々は、地元のサキソフォン演奏などで懇親を深めておりました。ところが、ネズミ色の雲が村を飲み込み、稲妻が光ってゴロゴロと鳴り響き、大粒の雨が落ち、激しく強くなりました。

心配していた雨もどうにか上がり、予定より三十分ほど遅れましたが、大勢の人が詰めかけました。子供達は練習の成果を元気な声と踊りで生き生きと表情豊かに表現し、会場を魅了していました。協力して作り上げる大切さ、ヨサコイへの熱意は誰にも負けないと全身で曲に合わせ、さまざまなお道具を使って表現される美と静に深い感銘を受けました。水上ステージでは、足元がぬれて滑って転んだり、演舞できなかったチームもあり、大変かわいそうな場面もありました。四十一チームの子供達は、大会のために地道な努力と工夫を重ね、それを支えたスタッフと一体となりおおいに満足していました。湖水に大輪の花火が色鮮やかに打ち上げられ興奮さめやらぬ中、今夜の宿へと。

お宿は、日本秘湯を守る会会長の二岐温泉「大丸あすなろ荘」でした。原生林と二岐川河原の源泉かけ流しの露天風呂、おもしろかったのは浴槽の中に腰ぐらいの深さの穴が三カ所、人がすっぽり入る岩風呂、足元がごつごつしてとても危険でスリル満点、キャーキャー言いながらお湯につかり楽しかったです。お料理は体に大変優しい手の込んだ和食でしたし、二岐の清水で入れたコーヒーマも大変美味しく素晴らしかったです。

【七月三十一日】

朝から気温がぐんぐん上がり、天栄の夏を盛り上げてくれました。パレードの会場では趣向を凝らした、じかたしやを先頭に、ビートのきいた曲の中にソーラン節のフレーズを入れ、手に鳴子を持った踊り手が沿道の人々を魅了しました。日焼けした子供達の顔は汗でぐしょぐしょになりながらも元氣いっぱい、祭りの気分は一層華やかになりました。

審査会場の村役場前広場では、各チームが札幌市の「YOSAKOIソーラン祭り」の出場権を目指して競い合っていました。時間の都合でどのチームが出場権を勝ち取ったのかはわかりませんが、

札幌でのソーラン祭りに参加経験のあるチームは、踊り手のきびきびした動作や優雅な表現がとても印象的でした。



子供達の踊りは、祭りを華麗に元氣に彩っていました。他のチームと見比べることもや実体験すること、よさこい踊りは着実に進化するようです。これからも、さらなる感動の踊りとなりますよう願っております。

会場を後にして、縄文時代から現在までの天栄村の歴史を展示している「ふるさと文化伝承館」や生産物直売所などを見学しました。が、活気のある村でした。感動の余韻を残しながら帰りの

飛行機に、窓からふるさとの風景を眺めながらの帰路となりました。YOSAKOIソーランジュニア東日本大会大会長(天栄村長)兼子司様はじめ、組織委員会や関係者の方々には大変お世話になりました。楽しく有意義な時を過ごすことができ、ありがとうございます。皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

OBからのお便り

「第二の故郷」  
北海道の三年間の思い出」

第九代次長 太田 久雄

明けましておめでとうございます。大変ご無沙汰いたしておりましたが、平成四〇六年の三年間、家族共々、県人会の皆様には、一方ならぬお世話になりました。改めて御礼申し上げます。十年経過した今でも、県人会の皆様との交流はもちろんであります。道関係者、野球関係者等の皆様と親しく交流させていただいております。

我が人生の中で北海道は第二の故郷として、常に非常に懐かしく思っております。

三年間を振り返ってみますと、様々なことが思い出されますが、まず、仕事の面では、連合会の総会が、年一回ではありますが、佐藤知事出席のもと、函館、札幌、旭川でそれぞれ盛大に開催されました。それから、県議会の北海道・東北ブロックの野球大会の応援、福島空港開港に伴う札幌便の就航への支援、ふくしま国体への募金活動など県連合会の長谷川会長さんはじめ会員の皆様には、大変お世話になりました。

また、私的な面では、稚内をはじめ、別海町、紋別、函館、旭川など当時二百十二市町村のうち、約九十の市町村を探訪し、県人会の皆様のご案内など大変お世話になりました。さらに、親子共々野球が非常に好きで、親はコーチとして、子供は選手として、真駒内の五輪球場で少年野球に明け暮れ、子供「達則」の甲子園出場の原動力になったことは、非常になつかしい思い出であります。

現在は、東京事務所勤務し、観光、物産、県人会などの対応をいたしておりますが、県外事務所ということで、皆様からのご指導

を思い出しながら頑張っております。事務所は千代田区の都道府県会館の十二階にあります。上京の際、機会がありましたら、是非お寄りください。再会を楽しみにいたしております。



なお、一昨年おじいちゃんになりました。(写真のとおり)上野動物園で)今後の皆様のご健勝、ご活躍をご祈念いたしました。便り」とさせていただきます。



## 新会員紹介

札幌福島県人会

小林清昭 (こばやしきよあき) 会津若松市

## 母県動向

うつくしま懇談会

昨年度から始まった「北海道と福島県の交流事業」の一環として、「うつくしま懇談会」が、さる八月三十一日に札幌市の全日空ホテルで開催されました。懇談会には、福島県から佐藤知事をはじめ県庁の関係職員や県事務所職員が出席し、北海道からは、道内の有識者やふくしまフレンドのほか札幌福島県人会の皆様も出席されました。

懇談会では「北海道と福島県の今後の交流の可能性を探る」食・自然・地域の交流を中心として「」をテーマに、各出席者から、両道県の今後の交流の方

法等について活発な意見が出され、その結果、若い人の交流の仕方を今後考えていくことをはじめとするいくつかの方針が示されました。



懇談会終了後は、交流会が開催され、会津地鶏、エゴマ豚などの福島産の農畜産物を使った料理や福島県産の清酒も振る舞われ、盛況裏に、「うつくしま懇談会」が終了しました。

## 福島県内の市町村合併の状況

「平成の大合併」に伴い、県内の市町村数は、昨年一年間で八十

九から七十四に減少しました。合併特例法の期限切れとなる今年の三月までには、さらに合併が進み、六十一市町村となる見込です。

昨年の三月には田村郡の五町村が合併して、県内十一番目の市となる「田村市」が誕生し、今年一月には「南相馬市」・「伊達市」・新「喜多方市」が誕生しました。さらに、三月には南会津郡の四町村が合併して「南会津町」が誕生する予定です。

県内の市町村合併の状況は下記のとおりです。なお、合併状況図は福島民報一月一日号から引用したものです。

### 編集後記

緩やかな景気回復が続く中で、公共事業への依存度が高い北海道では、本格的な景気回復はいま一步といったところか。地方の人口減少など、将来の不安材料も。

しかし一方で、知床の世界自然遺産登録や駒大苫小牧の甲子園夏連覇、北海道新幹線の着工など、明るい話題も多い。

今年も会員の皆様にとっても良い年になりますように。

### 福島県内の市町村合併の状況

合併期日	新市町村名	構成市町村
16.11.1	会津若松市	会津若松市、北会津村
17.3.1	田村市	滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町
17.4.1	須賀川市	須賀川市、長沼町、岩瀬村
17.10.1	会津美里町	会津高田町、会津本郷町、新鶴村
17.11.1	会津若松市	会津若松市、河東町
17.11.7	白河市	白河市、表郷村、大信村、東村
17.12.1	二本松市	二本松市、安達町、岩代町、東和町
18.1.1	南相馬市	原町市、鹿島町、小高町
18.1.1	伊達市	伊達町、梁川町、保原町、霊山町、月舘町
18.1.4	喜多方市	喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村
18.3.20	南会津町	田島町、舘岩村、伊南村、南郷村

### 県内の市町村合併状況

(平成18年1月1日現在、太枠は平成の大合併による新市町)

